

116

實現の亞西露ト一エウ

353

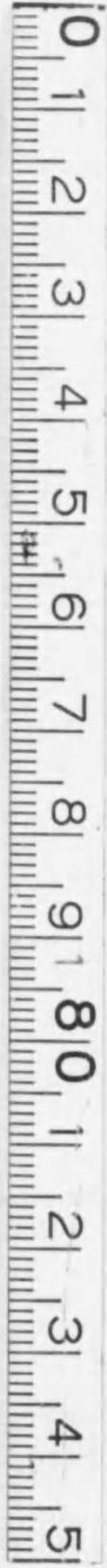
特 253

7

838



國際思想研究會編



始



特 253
838

は し が き

本會は其の創立以來各方面よりソウェート露西亞に於ける生活の實狀を知りたしとの要望に接したるを以て、爾來右に關する各種の資料及各國に於ける研究の結果を蒐集中なりし處、最近ソウェート側發表の材料に基く批判、ソウェート領域脱出者の證言及専門家の調査等にして、從來世間に傳はり居る政治家、利權屋、又は旅行者等の視察談とは異なるものあるも、ソウェート露西亞の近狀に付き十分信用に値するものを入手したるに依り、其の二三を刊行して、ボリシエビスムの理論と實際との間に大なる差異の存する事を示し讀者の參考に資せんとす。

昭和九年二月

國際思想研究會

目次

第一	五年計劃と露國勞働者	1
(一)	職業組合	1
(二)	勞働者	3
(三)	勞働者の活動	4
(四)	失業業者	5
(五)	勞働者取締	7
第二	農村	9
(一)	農民	9
(二)	集團農場	11
第三	ソウエート露西亞の實生活	13
(一)	住居	13
(二)	食糧品と日用品	16

(三)	交通機關	19
(四)	電燈	19
(五)	スポーツ	21
(六)	新聞及ラヂオ	22
(七)	氣風	22
(八)	外國人の取扱	23
(九)	學校	24
(十)	卒業後の仕事	27
(十一)	浮浪兒	27
(十二)	資本主義諸國の事情	29
(十三)	死亡率	29
(十四)	グ・ベ・ウ	30

第一 五年計劃と露國勞働者

ソウエート側の出版物及一部の外國の刊行物には、五年計劃の成功を誇大に報導して居るが、何れも新工場の新設及生産の増加だけを報じて其他の點に觸れて居ない。故に茲に五年計劃が實施されてから露西亞の勞働者の生活がどう變つたかを研究するのは無益の事ではないと思ふ。

統制經濟が始まつて以來共産黨の主腦者は勞働者の生産能力を増加する事が計劃の實行に缺くべからざる要素であるといふ事に氣が付いた。故に彼等は生産増加の妨害となるものは總て之を除去する事に力を注いだ、處が生産増加の妨害となる主なるものは、露西亞國內及外國の勞働者の人氣を取り且資本家の壓迫に對し勞働者を保護せんとして革命の初期に彼等自身が定めた法令である事を發見した。

個人の企業を禁歴し國家が完全に國民の經濟生活を統制した結果、勞働者を使用する者は國家丈けになつてしまつた。其處で唯一の雇主となつた國家は勞働者に對し如何なる態度を採つたか、換言すれば統制經濟の結果勞働者の生活はどう變つたか、以下其概略を述べよう。

(一) 職業組合

ソウエート露西亞の現實

共産黨は職業組合を全然無力なものにしてしまつた、と云ふのは職業組合を黨に從屬する一機關にしてしまつたのである。政府が五年計劃を實行する事にきめた時に職業組合幹部は其成功を疑ひ且つ五年計劃の結果労働者は非常な犠牲を餘儀なくされ、從て労働者の生活状態が悪くなる事を心配した。其處で彼等は一九二九年の職業組合第八回大會の決議として政府に對し左の二項を要求した。

一、五年計劃に依り労働者の實際收入 (Real Wages) を六割増加する事

二、國營工場の支配人間には労働者の實生活の必要を無視する傾向があるから之に對し労働者を保護する有効適切な手段を講ずる事

職業組合幹部の右の態度は共産黨の反對を招き、トレード・ユニオニストであるとかソシアル・デモクラットであるとかいふ非難を受けた、ソウエート露西亞で斯の如き非難を受けるのは非常に不名誉な事で職業組合幹部は結局免職になり、其代りにスターリン及スターリンの政策に忠實な共産黨員が之に代つた、それ以來職業組合の任務は左の通り根本的に變つてしまつた。

一、労働者間に嚴重な規律を維持する事

一、社會主義的競争、突撃隊 (Shock Brigades) 等に依り労働者をして仕事に熱心ならしめ生産を増加する事

一、労働者の小ブルジョア的思想を打破する事、詳言すればソウエートの國家を資本主義の國家と

誤認し或は出来るだけ少く仕事をして出来るだけ多くの賃金を得んとする考を矯正する事

斯の如く職業組合は全然共産黨中央委員會の指圖を受ける事になつてしまつた、換言すれば全然政府の機關となり其指圖の下に労働者を統御し、彼等をして雇主たる政府の定むる條件で最大限度の能率を發揮させるのが職業組合の任務になつた。其結果労働省は廢止され労働者の仕事は職業組合中央委員會に於て之を行ふ事になつた。

(二) 労働者

共産黨は職業組合新幹部の協力に依り從來の賃銀政策を變更してしまつた。例へば出來高拂の制度は資本家が労働者を搾取する爲めの惡制度と認められて居たが現在に於ては労働者の生産力を増加する最良の手段として推賞され單に工場に於てばかりでなく交通機關に於ても、建築に於ても、官廳に於ても (タイピストに適用するが如し) 適用されて居る、又賃銀の平等の如きも從來は革命の成果として重要視されて居たが現在では小ブルジョアの平等觀念として擯斥されて居る、一九三一年六月二十三日のスターリンの演説にも社會主義の國家に於ては賃銀の平等といふ様な事は有り得ない、労働者の報酬は仕事の量と質とに比例すべきものであるといふて居る。現在に於ては賃銀に等差を設けて居るばかりでなく配給される食物の分量にも等差があり、工場支配人は突撃隊に屬する労働者には實

質的な食物を與へ能率の擧らない労働者に對しては十分の食物を與へない様にして居る。先に職業組合が要求した勞銀の實質的増加の如きは今では全然問題にされて居ない。現に五年計劃の成績に付て國家計劃局の發表して居る處に依れば一九二八年乃至一九三二年の間に於て工業労働者の賃銀は十割増加して居るとの事であるが五年計劃の最初の二ヶ年間即ち一九二九年乃至一九三〇年の間に於て生活費が既に六割三分騰貴し其後即ち一九三〇年及一九三一年にも引續き騰貴し、労働者の實質的收入が増加せずして却て減少して居る事は疑のない事實である。其爲めか政府は生活費の統計を發表する事を中止して居る。

(三) 労働者の活動

ストライキは無い、やらうと思つても出来ないのである、失業者は今でもある、政府は人民を激勵して經濟計劃を實現せんとして居るが一般人民は反對して居る、此の事に付てX氏が面白い話をして居る。或時當局が集團農場コルホーズに働いて居る模範的な農民を招いて歓迎會を開いた事がある、處が労働者が熱心に之に参加するかどうか甚だ疑はしかつたので用心の爲め仕事が終ると工場の戸を閉めてしまつた、そこで出て來た労働者をならべて行列を作らせ行進をやらせた、然し普通の労働者は訓練が無いためポツル／＼落伍して列を去つてしまひ、残つたのはやつき組と黨に對し責任のある連中丈けになつてしまつた。

特殊の仕事をする外國労働者が多數雇はれて來て居るが、それが皆特別扱を受け、特に食料の點に於て優遇されて居るので露西亞労働者の反感を買つて居る。

(四) 失業者

ソウエト政府の發表する所に依れば露西亞には失業者がゐない、失業者が居ないといふ事はソウエトの經濟政策の成功を示す有力な證據であると謂ふてゐる、然しそれは果して事實であるか。一九二九年四月には百八十八萬人の失業者があつた、登録されて居ない失業者を加へると總計二百五十萬人に達して居た、これは當時職業組合が發表した數字である、其後一九三一年一月に發表された職業組合の最後の統計に依れば登録されて居る失業者は僅に二十三萬人となつてゐる。

産業全般に互り賃銀を得て仕事をしてゐる人間の數は一九二九年に千二百四十萬人であつたものが一九三二年には二千二百三十萬人になつてゐる、つまり四年間に約一千萬人即ち年二百五十萬人増加してゐるわけである、然し一方露西亞の人口は年々約三百萬人増加してゐる、從て右の四年間に千二百萬人増加してゐる勘定であるが工業が急激に擴張され仕事が増加した事であるから從來失業してゐた者も職を見付けたに相違あるまい、然し失業者が仕事を見付けたのは工業が擴張された爲めか

りでは無く實は左の如き非常手段の結果に依ると見るべきである。

一、失業手當を廢止した事

一、就業を強制したる事、即ち經驗を有せざる新しき仕事若くは遠隔の地に於ける仕事と雖も必ず之を引受くる義務ある事となりたる事

一九三二年になると形勢が變化した、即ち第一次五年計劃の完成に依り工場の新設擴張は激減したが労働者となる者は減少せず且つ労働組織が不完全であつたが爲めに熟練職工が著しく不足し、全般的に見て労働者の需要が却て減少する傾向を示して來てゐる、一九三三年の計劃には労働者の需要が壹百萬人減少する事を見越してゐる、一番多く減少を見越してゐるのは建築の方面で工場労働者の方は二分増加する事になつてゐるが一九三三年の始めの九ヶ月間の統計を見ると反對に四分乃至五分の減少を示してゐる、人口の増加から來る未就業者を別としても露西亞では昨今失業者が増加する傾向がある、然るに失業保險は既に廢止されてゐるのであるから露西亞の失業問題は歐洲諸國の失業問題に比し事甚だ重大である、ソウエト政府は何等失業救済の手段を採らず、唯労働者を都市から追拂つてゐるだけである、最近都市居住に付て許可制を採り許可の無い者は都市に居住出來ない事にしてゐるが斯の如き制度を採るに至つた一原因は失業者の増加に在るのである、都市に居住する事を許可されてゐるのは官吏又は政府事業に雇はれてゐる者だけである、從て失業者は直ちに都市又は工業地

から追放され、追放された者が如何にして生活するかといふ様な事は政府も職業組合も少しも考へてゐない。

(五) 労働者取締

工場の生産力を増加する爲に種々嚴重な取締手段が講せられてゐる、即ち一年間に一回以上工場を取換へたる者、無断にて職を去りたる者、後任者の出來るを待たず職を去りたる者はこれを「生産妨害者」と認め何れの工場でも六箇月以上は雇入れず、而も其六箇月間荒い仕事ばかりさせる事になつてゐる。最近は取締手段が一層嚴重になり、たとへ一度でも相當の理由なくして缺勤したる者は即座にこれを解雇し食料配給券及宿舍を取り上げる事になつてゐる、食料の不足、住宅難で苦しんで居るソウエト露西亞で食料券や宿舍を取り上げられる事は非常な苦痛である、然るに此取締手段が労働者の利益を保護すべき職業組合の同意、否、其要請に依りて行はれてゐるのである。ソウエト聯邦の労働者に對する政策は鐵道従業員に對する新取締規則を見ればよくわかる、同取締規則には規律を守らない労働者に對する罰則として譴責、警告、解雇（再び鐵道従業員たる事を禁止するものと否らざるものとあり）、地位の低下及二十日以内の拘留等が擧げられて居る、工場の規律を維持する爲に労働者を拘留に處する事はソウエト聯邦當局の新發明で他に其例を見ない處である、特に注意すべき

點は右の拘留處分に對しては最高幹部に嘆願するの外異議を申立てる方法がない事である、革命の初期に在つた工場委員會及勞働裁判所等は政府が全業を統制する様になつて以來何等の權力も持たず雇主たる政府は思ふ儘に其使用人を處罰することが出来るのである。

之を要するに職業組合、賃金、失業救済、勞働取締等何れの點から見ても露西亞勞働者の地位は統制經濟及急速なる工業化が始まつて以來著しく低下し彼等は今や彼等の所謂資本主義の國では考も及ばない様な取扱を受けてゐるのである、而も彼等は不平を漏すことさへ出來ず若し現制度を攻撃でもする様な事があれば「責任の觀念なき小ブルジョア」「無用の長物」「暴利主義者」と罵られ「生産の妨害者」として何時處分されるかわからない、然しそれに怖れず攻撃を敢てする者があれば即座に解雇せられるのが常であるが、若し宣傳、示威運動又はストライキに互るものと認められた場合には反革命の罪を犯したる者として刑法に據て處分せられるのである。

以上述べた處を見ても最近ソウエート領を脱出して來た某氏が五年計劃に就て次の如く語つたのは無理はなからう。

五年計劃の始めには宣傳につられて皆熱心に働いた、生活が改善される様になると思つて生活苦を耐へて來た、然し年月がたつと熱心の度が減じ今では不平をいふてゐる者が多い、政府を信用しなくなり戦争でもなければ生活の改善は望めないといふて居る、新聞に書いてある事も信用しなくなつた。

第二 農 村

(一) 農 民

現在ソウエート露西亞の田舎は不思議な光景を呈してゐる。即ち役人と農民とが戦争の様な状態にある、農作地の中央に望樓が設けられ機關銃迄持つた軍隊が居つて農民が作物に手を付けられない様に見守してゐる。此の軍隊には皆騎兵が附いて居り往々飛行機すらあつて、それが穀穂を切り取る農民を監視し（穂を切るに鎌を用ふるので彼等を理髮屋と呼んでゐる）彼等が自身の財産たる作物を勝手に取り入れるのを妨止してゐる、若し強いて收穫すれば最も嚴重な刑に處せられる。

最近モスコウ滞在中ホテルを出て横丁にまがると三人の子供を連れだ夫婦者が歩道の上にすわつて食事をしてゐた。ウクライナの農民らしいので、

「どうしてこんな處に來たのか」と聞いて見ると血色のよい妻君が次の様に答へた

「來ちやわるいのか」

「わるい事はないが新聞で見るとウクライナの農村には仕事がいくらでもあるといふじやないか」

「やりたい者にやらせて置くさ、野良仕事なんかわしや眞平だ、いくら働いたつて出来た物を役人が来て皆持つてつてしまふ」

「そんな事をべらぐしやべつて養しいとは思はないか、農民でありながら氣に入らない事があるからとて土地を捨て、逃げ出すといふのは第一卑怯じやないか」と窘めると

「集團農場で働くのが楽しみだと思ひなさんなら御自分で行つて働いて思ふ存分に楽しみなさい、役人が来て飼料まで持つてつてしまふので豚やなんか見てゐる前でバタ／＼斃れてゐますよ」とやり返されたので、其の人は口の中で

「何といふ教養のない人間だらう」とつぶやきながら行つてしまつた。

ハリコフ市の近在に行つた時に家畜の番をしてゐる者からこんな話を聞いた事がある。

私は永年家畜の番を生業として来た者ですが、此頃の様子にこんな少し許りの家畜の番をするのは初めてです。昨年はそれでも此の倍位居りましたが冬になつて飼料が拂底したので餓死されては大變だと云ふので屠殺した人も有り、買ひ出しに来た役人に賣つた人もありましたが、役人の拂ふた代金は市場の値段の二十分の一位でした。私は一頭に付いていくらかづ、貰つて家畜を番して居るのですが、御覽の通り二十五頭位預かつて居たのでは到底暮して行けません。そうかといつて預り料

を引上げるわけには行かず、致方がないから此商賣はやめにしようと思つて居ります。友人の手紙にドニープル・ストロイへ行けば仕事があるといふ事ですから寒くなつて家畜を外へ出して置けなくなつたら此村を引揚げようと思つて居ります。(米國モリス、ヒンダス)

(二) 集團農場

ポルタワ縣の或る村に行つた時に、村の者が代る／＼色々の話をしてくれたが一人の女のいふには私は集團農場に加入して居ますが此の野菜畑だけは私のもので、御蔭で野菜には困りません、以前は牛や豚も居りましたが今では鶏が一二羽居る丈けです、集團農場で飼料を分けてくれませんか、牛も豚も飼ふ事は出来やしせん。

此の話が終らない内に他の女が出て来て、

私の入つて居る集團農場では規定通りの穀物を一度ちやんと納めたのに暫くすると、又取りに来たもう来まいと思ふて居たら、又取りに来た、そう取られては春になつて困るから勘辨してくれと嘆願したが、愈々困つたら何とかしてやるからといふてとう／＼持つて行つてしまつた。春になると果して穀物が足らなくなつたので、役所へ出掛けて救済を願つた處が、今残つてゐる物で間に合せる様に何とか工夫しなさいといふ返事であつた。残つて居る物で間に合ふ位なら救済を願ひはしな

い、我々は役人にだまされたのだ、然しそらういふて怒つて居る間に段々食物がへつて来て、ぼんやりして居たら餓死する外はないので持ち物を賣つたりして互に金を集め北コーカサス、白露、ヴォルガ上流地方等へ人をやつて穀物を買つて来る事にした、處が汽車は何時も満員で中々切符が買へない、行列を作り長い間待つてやうやく切符を買ひ途中もさん／＼苦勞して穀物や粉をやつと三袋買つて歸つて春を過ぎた處ですと語つた。(米國モリス、ヒンダス)

X
X
X

The rule of Bolshevism is
that any section might sink below
but none must rise above the
others.

どん底生活に落ちるのは宜しいが生活の向上は罷りならぬといふのがボリシエビ
キの政治である。

第三 ソウエート露西亞の實生活

(一) 住居

一九一七年にボリシエビキは家賃の廢止を叫び立派な邸宅でもフラットでも空いて居る處には遠慮なく入つて住め、家賃は拂ふ必要がないと言ひふらした。有産者は逃げたり逮捕されたりして留守になつてゐる邸宅が多く、フラットに住んでゐた者も多くは家具や何かを其まゝにして居なくなつてゐるのでプロレタリアート連中はブルジョアの之等の空巢におさまつては見たものゝまさか其のまゝ永く住んで行けると考へた者は一人もなく、皆敵陣に一夜をしのぐと云つた様な氣持だつたので、室内をめちや／＼に荒してしまつた。寒さが加はつて來ると必要なのは薪である(露西亞の煖爐には薪を使ふ)然るに薪が手に入らないので最初は机類次は扉と云ふ風に手當り次第何でも焚いて寒さを凌いだ。それであるから家屋は破損した丈でなく後に倒壊したものが少くなかつた。オデッサのクリミヤ、ホテルが倒壊して約五十名の死者を出したのも原因は柱や梁を切り取つて焚いてしまつた事にある。倒壊した外に不注意の爲めに焼失した家屋も多かつたので、革命後間もなく住宅は三割も減少してしまつた。其頃は勿論電燈も水道も電車もなく都會生活は實に悲惨なものであつた。

ソウエート露西亞の現實

一九二一年にレーニンの所謂新經濟政策が實施され、今迄主のない無料宿泊所の様になつて居た住宅が全部國有となり、政府の命令で住宅組合を作り、居住者から委員を擧げ、各組合に屬する住宅を管理する事になつた。それ以來居住者は自分達の家といふ心持が出て、家屋の保全に興味を持つ様になり、修繕や改築さへ多少行はれた。然るにレーニン死してスターリンの天下になると、居住者は又住宅に對する興味を失つて來た。それと云ふのは新經濟政策時代には一軒一軒が住宅組合になつて居たので同一家屋の居住者は自分達の家といふ心持にもなれたが、スターリンの時代になると住宅組合の併合が始まり、最初は二三軒を一組合に合併し次には四五軒十軒と次第に擴大して終に全市の住宅を一個の委員會で支配する様にしてしまつたからである。これが現在の住宅管理制度である。

露西亞の都市の住宅は皆大きなフラットである。(貴族富豪の邸宅は別である)然るにそれが前述の如く減少し、一方都市の入口は著しく増加して居るので一人當り七尺四方の居住面積しか與へられてゐないのである。それであるから家族の多い者でないと一室を全部占領するわけには行かず、獨身者は男でも女でも居住面積の合計が特定の室の面積に達するまでは何人でも其處に同居させられるのである。臺所、風呂場、便所及廊下は共同で、誰れの居住面積にも入らず従つて掃除も共同責任であるが、寄り集り者の共同責任は結局誰れの責任でもないと同じ事で、掃除をする者がいないから其不潔さは名状すべからざるものがある。住宅委員會の許可一つで全然知らぬ人が誰れの室へでも割込んで來る。

室には勿論仕切りなどは無い。唯時々古いシートを糸でぶら下げて居る者がある位のものである。共同生活の理想を鼓吹されてゐるプロレタリアートでも炊事を邪魔されるのは不愉快であると見えて共同臺所に於ける女同志の紛争争闘が絶間なく、氣の弱い者は自分の室で炊事をする様になつて來てゐる。露西亞のストーブは二室に跨つて造られて居るので誰も責任を以てストーブを焚く者がなく愈々寒くて耐えきれなくなると、各自思ひ／＼に暖房を用意する。その結果一室内に數個の小さい鐵ストーブが立ち烟と悪臭を放つてゐるのを見ることは珍しくない。風呂場の如きは當の昔に共同塵捨場になつてゐる。電燈は勿論各自にメートルを取付ける譯に行かないから、大抵は比較的収入の多い者に料金を立替させ後に皆が割前を出す事にして居るが其割前がいつも紛争の種となつてゐる。

引越しは殆ど不可能である。仕事の都合で他の町に移轉する場合は新聞廣告で室の交換を望む人を求め、相手が見付かつたら互に自分の町の住宅委員會の承認を求めるのである。留守をする場合には出發の日と歸る日とを住宅委員會に届け出なければならぬ。届けた期日に歸らないと室が他人に取られ荷物は廊下に投げ出されて居る事がある。死人が出來ると埋葬のすまない内に代りの人が來て立退を迫る事が珍らしくない。離婚の手續はすましたが引越し先がないので又元の室に二人で同居した實例さへある。(英國アラン・ハード)

(二) 食糧品と日用品

町の飲食店で食事をしようと思へばどんなに安くとも百留以下では出来ない、飲食店で食事をし居る者はゲ・ベ・ウの巡査か探偵か左もなければ盗人である、偶々普通の人が行くとなんな散財をする金を何處から持つて来たか尋ねられる。

工場附属の食堂では一留出せば食事が出来る、然し其食事といふのは野菜のスープ（菜葉、馬鈴薯又は人蔘、セリ等を煮たもので灰色をして居る）パンと稱する物及悪臭を放つソースだけで、それをアルミニウムの匙でたべるのである、これが立派な食事と云はれてゐる。食券を持つて居る鐵道従業員などが食べさせられて居るのもこれである。

消費組合の賣店の前に行列を作つて居ると順番が来る迄に十二時間も待たされる事がある、而も愈々順番が来てやれ／＼と思ふと品物はトウに賣り切れて居るといふ様な事がめづらしくない、値段はといふと黒パンが一キロ二留、灰色のパンが三留である。

マツチ、麥粉或る種の工業品等輸出を目的とする物は品質がわるくないが國內で販賣する物は非常に品質がわるい。

一九三三年の秋の收穫後に革命十六年を記念する爲めに賣店が増設され賣價が引下げられた、處が

紀念祭がすむと増設された賣店は閉鎖され、賣價は復た上つた、人民は政府のする通りになつて居る、空腹で反抗する力がなくなつて居る、「食物が十分だつたら人民は恐らく一撥を起こすであらう、自由を得る爲めには戦も辭せないといふ考は持つて居る、然し反抗の氣勢を見せたら忽ちゲ・ベ・ウにやられてしまふ」と語つた人がある。今某地方脱出者の實際談を掲げよう。

「某地方は元來他地方に比し食料品が多い處であるので飢饉と迄は行かないが供給が十分でなく皆腹をへらしてゐる、脂肪、バター、牛乳、肉等が不足して居て値段が非常に高い、黒パンは可なりのものが有るが白パンはめつたに手に入らない、値段は黒パンが一キロ二留、白パンが一キロ三留五十哥である。

市民は皆食券を持つて居る、食券には三種ありて各自の身分に依て違ふ、食券の種類に依て購入し得る食料品の分量も違ふ。食券の中にはパンの切符、肉の切符、脂肪、工業品、石油の切符等が別々になつて居る、然しそれは切符の上丈けの話で實際はパンと石油の外は何も買ふ事が出来ない、食料品が手に入らないので致し方なしに労働者の食堂又は消費組合の食堂で食事をし居るが其の食堂にも亦種類がある、Y氏は労働者の食堂で食事をし居たが其處では一食七十五哥で脂肪分のないスープ（キャベツを煮たもの）と粥を食べさせてくれる、肉はめつたに食べさせてくれない。

労働者は數家族一室に住まはされて居る、臺所はなく、各自石油ストーブで炊事をするのであるが

前にも述べた通り大抵の者は労働者の食堂へ行つて食事をしてゐる。

賣店には大抵の物は有るが高くて買へない、例へば着物が一揃五百留、靴が一足百五十留といふ値段である、食料品が賣店に出ると忽ち行列が出来る、行列に加つて數時間待つて居ても順番が来る頃には賣切れて居る事がよくある。」

* * *
キエフとモスクー間の待合室で一人の農民が靴を買ふことの出来ぬことを嘆いてゐた。彼は厚い襪樓で足を纏ひ之れを細紐で縛つてゐた、そして赤衛兵の新しい長靴を指しながら云つた。

「見給へ、彼は靴を持つてゐる、我々は跣足であるかねばならぬ、然るに彼は皮の靴を持つて居る、あの靴は我々の牛の皮で作つたのだ、だから彼は我々の牛を足に附けてゐるのだ。」

さう云つて笑つたので彼れの友達も合槌を打つた、赤衛兵迄も笑つた。少し不自然の笑ではあつたが。(獨國ハンス・ジームセン)

ソウエート露西亞の人民は朝から晩まで食物の事ばかり考へてゐる。私は嘗て醫師や辯護士の集會に顔を出した事があつたが四時間もぶつとうして食物の話ばかりして居たには驚いた、知識階級の人がこの通りであつて見れば他は推して知るべしである。食物不足の人心に及ぼす影響の深刻な事は實に想像に餘りあるものがある。(英國アラン・ハード)

(三) 交通機關

ソウエート露西亞の鐵道は寒心すべき状態に在る、機關車、客車及貨車のみならず線路も悪く經營も良く行つてゐない、政府は例により總ての責任を「惡従業員」(Saboteurs and Wreckers)に歸し彼等を一掃する爲め今年になつてから大停車場、製作工場、修理工場等に政治部なるものを新設した(一九三三年七月十一日發刊イズベスチャ參照)政治部の長は共產黨員で廣大な権限を有し目下盛んに「惡従業員狩り」を行つてゐる。

某町では電車が大底破損して居る、運轉して居る時は何時も満員であるが電力が不足で時々停車する、バスもあるが唯一線だけである。

(四) 電燈

送電は不規則で電燈がついたり、つかなくなつたりしてゐる、或時革命の祭日だといふので市内にイルミネーションがあつた事があるが、其の爲めに地方一帯の送電は中止されてゐた、相當な祭日で電力が餘計入用になると何時もこの手で來るのである。

電氣事業に關する露西亞の諸統計は區々であるが何れを見ても明かに經營の非經濟性が看取される。左表はそれを示すものである。

年	發電能力 百萬キロワット時	消費量	利用の割合
一九一三	八・五五〇	一・九五〇	二二・八
一九一六	八・五五〇	二・五七〇	三〇・〇
一九二一	八・五五〇	五二〇	六・二
一九二二	八・五五〇	七七〇	九・〇
一九二三	八・五五〇	一・一四〇	一三・四
一九二五	一一・〇〇〇	二・二七〇	二〇・八
一九二八	一五・〇〇〇	五・一六〇	三四・五
一九二九	三五・〇〇〇	六・二〇〇	一八・〇
一九三〇	四六・〇〇〇	八・七〇〇	一八・八
一九三一	六三・〇〇〇	一一・〇〇〇	一七・〇

「如何なる犠牲を拂つても巨大なるものを」、これが今日のソウエート權力者の合言葉である。彼等は經濟的といふことには些少の考慮をも拂ふことなくたゞ記録の數字に得々としてゐる。最近多大の吹聴を以て開始されたドニエプロ・ストロイは八十五萬馬力を供給する。しかしこの莫大な電力の消費者は何處にゐるのか？ソウエート露西亞は無暗に建設し現在に躓いてゐる。住民の實際の需要を心がけることなく、常に未來の計劃を夢見てゐる。(奥國モツス教授)

(五) スポーツ

普通人はスポーツなんか殆どやらない、やるのは共產黨員ばかりである、つまり食べたい程たべられる人だけがあるのである、X氏の言ふ通り「腹がすいて居てはスポーツをする氣も起らない」のである。夫れでもポリシエビキは自國のスポーツに就て次の様に云つてゐる。

「戶外遊戯及體育は醫師の監督の下にある、醫師の検査を受けなければ何人も競技に参加出来ない。レーニンград、莫斯科、スターリングラド及ハリコフ諸市の體育學校は遊技團並に學校軍隊等の爲に指導者を養成する、職業的競技者は存在せぬ、戶外遊技は選手の養成を目的としない、又記録を争はない、唯人民の體力の向上を目的とする。」

(六) 新聞及ラヂオ

地方新聞は海外ニュースを掲げず唯僅に對外問題に付て國內に起る反響を漠然報導して居る丈である、之に反し内政問題の記事は非常に多いが無意味なきなり文句丈けである。

ラヂオは普及して居ない、水晶のセットは九十留、數個のランプの付いて居る聴音器は七百留から九百留する。部分品は殆ど手に入らない、外國の放送はポーランドやエストニアの放送でさへめつたに聞けない、祭日には大概放送を聞く事が出来るがそれはモスコイ及地方からの放送である。

(七) 氣 風

人の氣風は一般に野卑になつた、巡査にものを尋ねるにしても戸をしめてくれとたのむにしても或は學校の小供が風船遊びをするにしても大きな聲を出し亂暴な言葉を使ひ毆り合ひ迄もする。某氏は資本主義の國で市中の巡査が丁寧に應答し相手に敬禮までして居るのを見て驚いたと云ふて居る、ソウェート露西亞では客に對し丁寧懇切なるべしといふ事を店に貼り出してはあるが誰れもそれを守る者はない、酔拂ひが多いので政府は「酔漢乾燥所」(Institutes of desouking) を設け巡査が町で酔拂ひに出會つたら否應なしに捕へて其處に入れてもよい事になつて居る、乾燥所に入ると水風呂をわび

てからねかされる、翌日眼が醒めると二十五留取られる。博愛を看板にして歳入を計るのが此の制度の目的である。

電車の中で巡査が浮浪人に武器(ピストル)を盗まれる事がある、浮浪人(宿無しの小供)は巡査に取つては苦手で、巡査が時々彼等の爲めに暗殺される事がある。

カリーニンが或町に來た時に巡査が町の一部を取り巻いて交通を遮斷した事がある。某氏は之を見て「人民の指導者でも人民が怖ろしいのかしら」と不思議に思ふたと云ふて居る。

野卑な言葉と云へば政治部(共産黨最高部)や人民委員會議(内閣會議)では随分きたない言葉を使ふ、然し規律が嚴重なので、スターリンの前で無遠慮に物を言ふのはルイコフとウオロシロフの二人だけで、其他の者は畏まつてゐるが、スターリンが居なくなると急に言葉が下品になる。(露國ベセドフスキー)

(八) 外國人の取扱

ソウェート政府は外國人に特別の注意を拂ひ彼等に見せる爲めに特別の工場、住宅及集團農場を設けてゐる、某氏は之を評して「まるで外國人に芝居を見せてゐる様なものだ」と皮肉をいふてゐる、

労働者は外國人に近づいたり話をしたりしてはならない事になつてゐる。

活動寫真を見に行くと、「日常生活」といふ標題の宣傳寫真が出て来るが労働者は之を見て「こりやおれたちの生活じゃねえ、外國人の生活だ、おれたちや、こんな結構な生活は出来つこなした」といふてゐる、佛國前總理大臣エリオ氏が来た時は當局が紹介した労働者と丈け話して居たが有名な外國人が来ると何時も此の手を用ひ紹介される労働者には新しい着物を着せ歌まで教へ込んである、然し「腹がへつてゐては歌だつて心持ちよく歌へやしない」と某氏は云ふた。

ソウエート露西亞に於ては普通の旅行者は何一つ實情を見ることが出来ない、たゞポテムキン式に陳列されたる見本を観ることが許されてゐるのみである、短い間國內に滞在したのみで詳しく研究して現實と外觀とを區別し得なかつた人には深い内實を知る事は不可能である。(埃國モツス教授)

(九) 學校

學校は二種類ある、一つは七年制度の學校で、それを卒業すると労働學院 (Labiho) 即ち高等豫備校にはいれる、も一つは九年制の學校でそれを卒業すると直ちに高等専門學校に入學出来る、中等の學校に入學する場合に共産黨員は優先權を持つてゐる、學校の設備は不完全で科目の程度も低い、學

費は無料であるがノートは自分で買ふ事になつて居る、然し紙が不足して居るので其ノートたるや反古紙を綴つた様なもので中には新聞紙を使つてゐる者もある、鉛筆も非常に悪く書くに骨が折れる、教科書特に數學の教科書が不足し、時には全く無い事がある、或る學生が帝政時代の父の古本で勉強し規定以上の事を覚えて學校へ行つたら「君はソウエート聯邦の人間であるからソウエートの教科書に書いてある通り答へなさい」と叱られた事がある、教科書が不足してゐるので學生は團體を作り一冊の本で勉強する、そうすると争が起り殴り合ひになつて全く勉強が出来なくなる事がある、幾つかの學校が同じ校舎を使つてゐるので始終集團化の原則が應用される事は勿論である。

學校内には教師委員會 (Uchkom) 青年委員會 (Youth Committee) 共産青年聯盟 (Komsomol) 等色々な委員會がある、行儀の良い學生は極めて少ない、嚴重に監督する事にはなつて居るが町へ出るとすぐ亂暴をする、亂暴をするのは今の露西亞青年には當り前の事になつて居る、學校以外に於ける學生の行狀に付いては關心を持たないと學校當局がいふて居る、家庭に歸つてからの學生の行ひに付ては教師は何等の教訓も與へない、學校内で國家至上主義の教育を與へる丈けである、共産黨の理想から見れば之れが當然の事でもある、家族制度は全然無視せられ家族は無いと同じ事である、教師は何等の權威を持たず、生徒は教室で勝手に話をしてさわいで居る、休みの時間になると十二歳位の小供で教師に烟草の火をもらつてゐる者がある、女生徒でも酒を飲んで酔拂つて居るのが居る、生徒の飲

酒は度々教育界の問題となつて居る、教室で著物、教科書、手帳等からパン迄盗む生徒が居る、盗んだ物は賣つて酒代にする、烟草をのむ學生は非常に多い、此の問題に就て某氏の談に依れば或學校では生徒がゴム管で一種の水烟管を作りそれで烟草を飲んで居た、女教師が現場を見付けたが生徒の勢が強いので止める事も吐る事も出来なかつた、そこで他の生徒達が之を委員會の問題にしたが簡単な討論があつた丈で暗の裡に葬られてしまつた、女生徒で或る「勞働」に従事して居る者が珍らしくない、學生の生活は悲惨なものである、昔は制服を著て居たが今はボロを著てゐる、教室には暖爐がないので生徒は外套を著たなりですわつてゐる、しかも其外套たるや外套と云はんよりは外套の殘骸といふ方が適當な代物である、寒さは非常に厳しくベンも持てない事がある、そつういふ時は筆記をやらないでゐる。

學校には色々な細胞がある、赤色救援、文盲退治、反宗教及各種の赤軍補助機關等が是である、然し之等の細胞の仕事は名簿に姓名を記入し毎月五十哥の會費を納める事位のものである、毎月一回集會はあるが會費滞納問題以外には議題がない。

ソウエート露西亞の學校では歴史を教へない、其代り共產主義の理論をひやみに詰め込む、青年共產聯盟の會員は學校でも或る種の特權を持つて居るので教師は彼等に特別の注意を拂つてゐる、物を買ふ場合にも青年共產聯盟員は特別の便宜を與へられてゐる、然し彼等は概して他の學生よりも品行

がわるい。

(十) 卒業後の仕事

某氏は十七歳で學業を終り卒業證書と「さあ、これから社會へ出て獨力でやつて行け」といふ激勵の言葉とを頂戴して學校を出た、然し九箇年制の學校及勞働學院を卒業しても上級の學校に入學する資格が付き、上級の學校を卒業すれば技師になれるといふ丈である、あさがあれば高等の専門學校へ入學する事が出来る、高等の専門學校に入學して二箇年間勉強すれば職工長として職を求める事が出来る、四箇年間勉強すれば技手又は技師として求職が出来る、學校に空席があれば青年共產聯盟員が優先權を持つてゐる、然し大多數の學生は高等の學校に入學するよりは職業を求める方に熱心である、新設工場には仕事の口がない事もないが採用される前にプロレタリアートの出身であるや否やを確める爲めに嚴重な試験がある、試験の結果政治的の仕事に大に活躍した若い共產黨員が採用され、其の爲めに立派な技手が技術以外に取り所がないといふ理由で追出される事が度々ある。

(十一) 浮浪兒

身寄りの無い兒童即ち浮浪兒は方々の都會に巢をくつてゐる、年齢は十九歳から二十歳迄がとまり

で團體を作り互に連絡してゐるので市民は非常に怖れて居る、日中は勞働に従事し夜になると集まる團體もある、大膽に通行人を襲ひ著物でも食物でも手當り次第に搦拂つて逃げる、婦人を襲つて外套の襟をもぎ取つたり母親と町をゐるいてゐる小供を襲つて重傷を負はせたりする事もある、公園などでは餘程用心してゐないと危険である。一般に日没後の外出は危険である。泥棒には若い者が少くない、泥棒をしても罪は必ずしも同一でない、スキ一の好きな十六になる小供が集團農場から小さい皮を一枚盗んだ事がある、處が其皮は小さくとも大切な皮で或る機械を修理する爲めに缺くべからざるものであつたので其小供は三箇月の禁錮といふ重い刑に處せられた、社會主義の國家に屬する物を盗んだが爲である、個人の物を盗んだ場合はそれ程刑が重くない。ソウエート政府は犯罪捜査の爲めに密告を大に利用して居る、思想の取締にはよく子供を利用して居る、小供は獎勵されるので遊びに來た様な顔をして友人を訪問し其日常生活特に宗教關係を探つてグ・ベ・ウに密告するのである、密告された者が農民又は勞働者の子弟である場合は單に訓戒を與ふるに止めるが他の階級の子弟である場合には退學を命ずるのである。

離婚の頻繁なることは更に他の弊害を來たす、それは小兒地獄である。市街に投げ出された小兒は放浪の極蠻民の群の如き状態に墮落し、ソウエート露國の最も耻づべき缺陷の一を爲してゐる。一

九二六年の法案の中央執行委員會に於ける討議中に代表者バシニコフは下の如く論じた。「近年男も女子も餘り放埒に過ぎる。二十人位の妻を持つ男はいくらもある。それ等の男は一人の女と一週間同棲し、他の女と二週間同棲すると云つた調子でそれ等の女に子を生ませる。之れは許すべからざる事である。男にも女にも扶養の資力がないので子は市街へ投げ出される。夫れが所謂「放棄されたる小兒」を生ずる原因である。(露國ココフツォフ伯)

(三) 資本主義諸國の事情

資本主義諸國の生活狀況は悲惨なものであるとばかり聞かされてゐるのでソウエート露西亞人は自分等のみじめな生活に比し歐洲諸國の生活がごんなに優つて居るかを想像する事が出来ない。現に某氏は歐洲へ來て立派な商店、奇麗な都市、村落及道路等を見て其の意外なるに驚き、又た何處の商店へ行つても行列を作つて待つてゐる者は居らず誰れも彼れも丁寧で服装も立派なのを見てあつけに取られて居た。

(三) 死亡率

老若共に死亡率が増加して居る、チブスや結核に罹る者は非常に多い一九三三年には西比利亞に惡

疫が流行した、病院は設備が悪く、しかも入院するのが容易でない、良い醫者はめつたに居らず若い醫者は居るが頼りにならない、クリミヤに療養所(サナトリウム)があるが普通の労働者はめつたにはいけない、入所して居る者は共産黨員、突撃隊員(労働者)各部の長官等で何れも長逗留をして居る。

(四) ゲ・ヘ・ウ

迫害逮捕は依然として行はれてゐる、死刑は殆んど毎日ある、密偵が到る處にゐるのでめつたな事は話せない。

共同一致が力である事は共産黨も十分承知してゐるけれども彼等の政策を實行するために態々國民を分裂させてゐる、故に彼等は住宅内にも色々な人を雜居させ和協を妨害してゐる。例へば同一住宅内で二家族が親密にするに入れ替へを行つて之を分離する、二人の人が親密にして居れば反共産黨の新グループが出来た様に考へるのである。一九三一年頃からは各住宅に黨の信頼する者を住まわせてゐる、之れが所謂「安全な分子」である、市中に暴動でも起ると門をしめて居住者を外に出さない様にするのが彼等の任務である。私の住んで居た家には室が六七つあつたが其の中に五名の

共産黨員が家族を連れて住込まされて居た。

住宅には一軒毎に「トロイカ」と云ふものがある。トロイカとは「三ツ」と云ふ意味で、つまり三名の委員である、此の委員は住宅内の大小の出来事をゲ・ヘ・ウに報告する任務を持つて居るのである。(英國アラン・ハード)

五年計劃窮極の目的

五年計劃の目的は之に依て露西亞を工業化し、全然外國より原料及製品の供給を受けず、自給自足にして而も世界市場を擾亂するに足る安價を以て莫大なる製造品を輸出し得る社會主義國となすにある。尙ほ之と同時に精銳なる赤軍及空軍を作り、國民を軍隊化し、用意成らば各種の革命團體を糾合して資本主義國と雌雄を決する計劃である。

(英國ジョン・バーカー・ホロイト)

國際思想研究會設立趣意書



世界の秩序は東西の國家が正義人道を重んじ互に他の國體を敬するを以て基調とす。然るに第三インターナショナルは其唯物觀に依りて全社會を律し宣傳、煽動、擾亂等諸有手段を用ひて廣く其主張を強行せんとす。是れ正義人道に悖り獨り我建國の精神と相容れざるのみならず國際間の秩序を紊すものなり。

因りて茲に國際思想研究會を設立し海外同趣旨の團體とも連絡して第三インターナショナル其他同種主義者の思想及其活動を調査検討し以て我國體の擁護並に國際正義の推弘に貢獻せんとす。敢て同憂諸賢の贊助を冀ふ。

昭和八年九月二十三日



昭和九年二月二十八日印刷
昭和九年三月五日發行

定價金拾八錢

編輯者

花岡止郎

印刷者

小林又七

東京市芝區琴平町一・五 不二屋ビル四階

發行所

國際思想研究會事務室
電話芝二二八—二二九番

終

